

目的とねらい

戦後史を事件や出来事で語るのが普通ですが、私たちの記憶には、その時に印象づけられた人物をキーにして思い出すということがよくあります。今回は、その時代のキーパーソンを中心に、戦後を語っていきます。おそらくあまり知らなかった人物が、歴史の中で果たしたことと、人物自身をよく知り、次の課題を考える素材となることを狙いとしています。

会 場

河原町学舎

定 員

50名

受 講 料

10,000円

講 師

原田 敬一（佛教大学名誉教授）

日 程

全8回 第4金曜日
13:30～15:30

（日程等是一部変更になる場合があります）

①	「戦後の始まり」 丸山 眞男・家永 三郎 「あの戦争」は何だったのか、「戦争責任」は誰にあるのか。政治学者丸山眞男と歴史学者家永三郎。二人の「戦後」の始まりは、日本の歴史を語ることから始まった。	4/26（金）
②	「戦後をどう描くか」 今井 正・新藤 兼人 映画に携わることを決意した二人の青年が、戦争を体験し、新しい時代がきたことを実感した。二人は、どのような「戦後」を描いていったのか。人々は、二人の映画から何を読みとったのか。	5/24（金）
③	「戦後」の生活が変わっていく 中内 功・堤 清二 小作人が激減し、労働者が急増する社会が、戦後改革によって誕生した。都市化がいっそう進み、住まいも変化していく。戦前とは異なった社会で必要な新しい流通を創っていった二人。	6/28（金）
④	戦後婦人運動の旗手たち 奥 むめを・市川 房枝 1920年、新婦人協会を、平塚らいてふ等と立ち上げた二人は、戦争協力の嵐を乗り越え、戦後の婦人運動にもリーダーとして活躍し、数々の運動を全国で盛り上げていった。	7/26（金）
⑤	もう一つの自民党路線 石橋 湛山・三木 武夫 ジャーナリストから、戦後政治家へ転身した石橋湛山。最年少で衆議院議員になって（1937年、30歳）政治家人生をスタートさせた三木武夫。二人は自民党の旧路線を改革しようとしていた。	9/27（金）
⑥	地方自治の改革を進める 蜷川 虎三・美濃部 亮吉 経済学者から中小企業庁長官、さらに京都府知事になった蜷川虎三。経済学者から東京都知事になった美濃部亮吉。「民主府政」・「革新都政」を掲げた新しい地方自治とは何だったのか。	10/25（金）
⑦	沖縄は沖縄人のもの 瀬長 亀次郎・屋良 朝苗 1945年以来米軍の占領下におかれた沖縄。軍事力を背景に基地の設置と活用をやりたい放題のアメリカ。それらに抗して二人は闘い続けた。	11/22（金）
⑧	新しい大学像をめざして 末川 博・住谷 悦治 滝川事件（1933年）で京大を辞めざるをえなかった末川、治安維持法違反で同志社を追われた住谷。二人は、戦後新しく出発する私立大学をリードしていった。	12/27（金）